

# しびる

一般社団法人日本建設業連合会 関西支部



●巻頭対談／近畿の未来  
関西を愛する関西人による「関西・喝・性化対談」

**旭堂南陵氏×井上章一氏**

●レポート・最前線

阪神高速大和川線の常磐工区  
先進技術を駆使して

**大和川線の難工事に挑む**

●ザ・プロフェッショナル

女性が活躍できる、建設業の魅力伝えたい。  
「チームならら小町」

●偉人たちの歴史街道

運命に引き寄せられ、京都に、命の水をもたらし  
二人の偉業 北垣 国道／田邊 朔郎

●しびる Walker

自然と共生し豊かに生きる、北但馬路・豊岡、  
ランドマーク

内部公開に向けて再生される

**大阪万博のレガシー**  
2018年春OPEN

●トピックス／歴史のある風景

# 歴史のある風景

## 山から山へ、谷底の川を駆け上る疏水 〜御坂サイフォン橋〜

兵庫県三木市を流れる淡河川おうごがわと志染川しじみちようが合流する志染町。

ここに不思議な名前を持つ橋がある。

「御坂サイフォン橋」という名の水管橋だ。

一般には眼鏡橋めがねばしとも呼ばれている。

明治24年（1891年）、当時としては画期的な事業として、当時内務省土木局の顧問であったイギリスの陸軍少将パーマーによって設計された。

標高約134mの北側の山から、谷底の志染川を通り抜け、

標高約131mの南側の山（現在は三木総合防災公園内）へと水を送る水路で、

淡河川疏水の一部をなしている。

約25mの落差により高い方の山から谷底を通り低い方の山へと流れ込んでいく

サイフォン（逆サイフォン）の仕組みを取り入れている。

つまり志染川に架かるこの眼鏡橋は、二つの山をつなぐ水路管の底でもあるのだ。

淡河川疏水は、琵琶湖疏水（滋賀県〜京都府）、安積疏水（福島県）と並び、日本三大疏水の一つ。

疏水のある印南野台地いなみのは、瀬戸内海気候の小雨地帯に位置し、

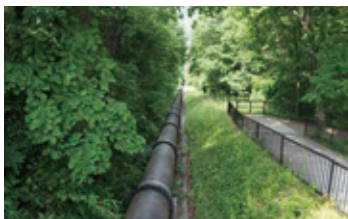
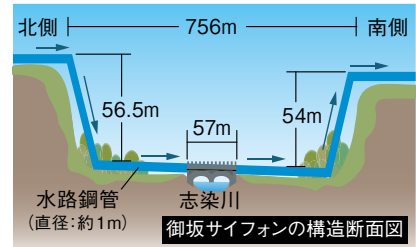
砂やレキ混じりの土質のため、地下水も少なく、水に乏しい地であった。

そのため住民はかねてより河川から水を引くことを渴望、

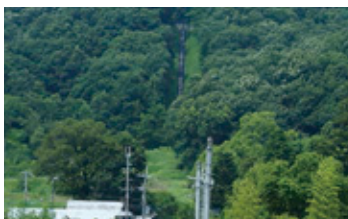
パーマー少将の功績でようやく実現した。

御坂サイフォン橋は、一部改修をされているが

創設当時の石橋を崩さず、土木遺産に指定されている。



南側斜面から見下ろした水路管



北側の山から下りてくる水路管が遠くに見える



志染川に架かる御坂サイフォン橋

発行:



一般社団法人日本建設業連合会 関西支部  
JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

編集: 広報委員会 千540-0031 大阪市中央区北浜東1-30 大阪建設会館内

平成29年11月1日(年1回発行)

TEL.06(6941)3658 制作: 株式会社 廣済堂